

サポーターズタイムズ Supporters Times



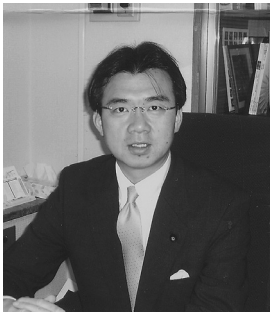
2006年(平成18年)
9月1日(毎月1日発行) **No. 134**

秋葉けんやサポーターズ事務所
自由民主党宮城県衆議院比例区第一支部
〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4-17-16

Tel 022(375)4477
Fax 022(375)0057

衆議院議員 秋葉 けんや 政策・活動レポート

購読料 年額6,000円
編集 集 (株)アクトジャパン



小泉政権の5年間を振り返って ～改革の芽を大きな木に～

小泉政権は、この5年間、「改革なくして成長なし」「官から民へ」「国から地方へ」をスローガンに、これまで既得権益に守られてきた日本の古い枠組みを打ち砕き、構造改革・規制緩和を進めてきました。結果、日本経済は、長い停滞からようやく脱し、経済成長の芽が出はじめています。

まず経済面では、これまでの自民政権ではできなかった郵政民営化や、政府系金融機関の再編・政投銀の完全民営化を含む特殊法人改革に道筋をつけました。また重大な問題となっていた不良債権の処理に取り組み(主要行の不良債権はH14年3月期8.4%→H18年3月期1.8%に減少)、将来世代に負担を残す公債の発行額を抑制し(H18年度は5年ぶりに30兆を下回る29.97兆円)、歳出の見直しにも取り組みました。結果、平成18年度予算では、プライマリーバランス(基礎的財政収支)が4.7兆円の縮小に転じ、財政再建化への道を歩み出しています。

また国と地方の関係では、国庫補助負担金改革(4.7億円)、国から地方への税源移譲(3兆円)、地方交付税の見直し等の三位一体改革を進め、地方分権への方向性を決定づけました。

さらに安全面でも、小泉政権5年間で治安回復の兆しが見え始めています。「空き交番」の解消や警察官、麻薬取締官、税務職員、検察官の増員等を定めた「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」(平成15年)、官民連携で安全・安心なまちづくりの取組を展開するための「安全・安心なまちづくり全国展開プラン」(平成17年6月)、子どもを狙った犯罪に対し登下校時の児童の安全確保等の対策を定めた「犯罪から子どもを守るための対策」(平成17年12月)等を次々に策定し対策に乗り出した結果、過去最多を記録した平成14年度の刑法犯認知件数285万件(検挙率20.8%)が、平成17年度には226万件に減少(検挙率28.8%に上昇)しました。

一方、通常国会の焦点の一つにもなった「格差」問題、特に成果主義賃金の導入やニート・フリーターの増加等による「所得格差」の拡大傾向は、安易に見過ごされてはならない問題です。しかし、格差拡大を過度に強調してそれを口実に既得権益を擁護し、格差そのものを固定化するようなことがあってはなりません。むしろ、大切なのは、努力した人が報われる公正な社会を実現すること、そして例え失敗したとしても再挑戦できるような、人生の各段階で多様な選択肢が用意され新規参入が許される社会をつくること、だと思います。

今月の20日には新しい自民党総裁(総理大臣)が選出されます。社会の閉塞感を打破し、活力のある日本社会を維持・展開してゆくために、今後とも構造改革の路線をしっかりと推し進めていかなければなりません。

衆議院議員 秋葉 賢也

愛する人がいるから、必死になれる! 松下政経塾出身、44歳!!

政策 スポット

頑張る皆さんを政治の力で支援します!

皆さんも、市民参加型の国際協力に参加しませんか!

総務省統計局によれば、日本の一世帯あたりの一日の食費は平均2,259円、生活費は平均9,880円です。これに対し1日1ドル未満で暮らしている人が世界で約11億人、その内の3億人がアフリカ大陸で生活していることを皆さんは、ご存知ですか?日本アフリカ連合(AU)友好議員連盟のメンバーとして、アフリカ7カ国を視察した秋葉代議士は、現地で青年海外協力隊員として活躍している日本人の若者、特に若い女性たちが生き生きと活躍している姿を目にし、感銘を受けたそうです。モノやカネではなく、現地住民と一体となった人と人との真の国際協力が重要である、と。

そこで今月号では、青年海外協力隊の派遣機関であるJICAの主な事業内容を紹介した上で、JICAが進めている「ボランティア派遣」について詳しくご紹介致します。

【JICA(国際協力機構)】

JICAの現理事長が第8代国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子さんであることから、皆さんもテレビ等を通じて、耳にされたことがあるかと思います。JICAは、独立行政法人国際協力法に基づき2003年10月1日に設立された外務省所管の独立行政法人で、この前身である国際協力事業団は、1974年外務省の特殊法人として設立されました。

政府が開発途上国に行っている資金や技術協力を、ODA(政府開発援助)といいますが、このODAには、①二国間贈与、②二国間貸付、③国際機関への出資・拠出等があります。JICAは、その内の二国間贈与の実施機関の一つとして、《技術協力》と《無償資金協力》を行っています。更にJICAは、途上国の要望を踏まえ、現地の人々と一緒に活動する市民参加型の協力を推進しており、その一つに、青年海外協力隊を含む「ボランティア派遣」があります。

【ボランティア派遣】

JICAが行っているボランティア派遣には、(1)20代から30代を対象にした『青年海外協力隊』、(2)40代以降の年代を対象にした『シニア海外ボランティア』、(3)日系社会ボランティアをする『日系社会ボランティア』と『日系社会シニアボランティア』があります。

(1)まず青年海外協力隊(Japan Overseas Cooperation Volunteers)は、「自分の知識や技術を活かし、開発途上国とその人々のために貢献したい」という意欲と情熱をもった日本人の若者たち(20歳~39歳)をJICAが公募し、2年間のボランティアとして開発途上国に派遣する制度です。2006年5月末時点で76カ国に2530名の隊員が各途上国の要請に基づき派遣されています。活動期間は、原則として2年で(但し、本人の希望により「1年派遣制度」が適用される場合もあります)、隊員の派遣職種は非常に広範囲であり、家畜飼育、印刷、自動車整備、上下水道設計施工、看護婦、サッカー等の7部門約140種類にまで及んでいます。



(△モザンビークで農民の指導者としてかがい
工事を行う隊員【2005年版ODA白書】)

隊員の待遇ですが、まず現地生活費として月額270~700米ドルが支給されます。また住居については相手国若しくはJICAにより提供され、往復渡航費はJICAが負担します。業務上の災害については労災保険から、業務外災害には国際協力共済会から給付を受けることが可能です。

隊員資格については、20歳~39歳までの日本国籍をもち、かつ単身赴任できることが条件となります。公募の場合、選考試験(一次(筆記[技術、英語、適正テスト]と健康診断)、二次(面接試験、健康診断))が行われます。

またJICAは帰国後の隊員に対する進路相談やキャリア・アップ支援等も行っています。

(2)『シニア海外ボランティア』は、開発途上国でボランティア精神をもってその国の開発に協力したいという意志のある中高年層の人で、優れた技

術や豊かな職業経験をもつ方を支援するため、1990年から外務省とJICAにより実施されている事業です。2006年5月末現在、54カ国に708名の皆さんがシニア海外ボランティアとして派遣されています。シニア海外ボランティアについても、開発途上国から要請される職種分野は、計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉と、多岐にわたっています。

現地での待遇は、現地生活費、住居費、旅費をはじめ、健康診断料、国内積立金(無職の方が参加される場合)などがJICA規程に基づき支給されます。また年金受給中の方については、JICAから支給される現地生活費とは関係なく、年金を受給することができます。

シニア海外ボランティアの応募資格は、40歳から69歳までの日本国籍をお持ちの方であり、選考基準は、①ボランティア精神をもち、自発的に参加する意志があり、②人格に優れ、心身ともに健康であり、③開発途上国の経済・社会の発展に貢献しうる技術・知識・経験をおもちで、④技術移転に必要な一定レベルの英語力のある方、となっています。

これらのJICA事業は、非常に公共性が高く、国際協調・平和に資するものです。こうした人的・技術的協力の安定的実施には、政府による財政支援が重要であり、国政の場で、国による予算措置等を提言してまいります。

◎青年海外協力隊・シニア海外ボランティアのお問い合わせは、

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局 TEL 0120-32-5931 まで!

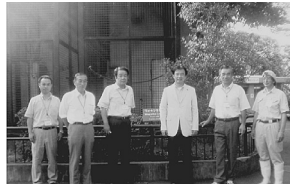
ボランティア募集中!

未来は与えられるものではなく、自ら勝ちとるもの! 秋葉賢也は挑戦し続けます!!

仙台に『アイアイ』を迎え入れよう!

7月に秋葉代議士は、日本アフリカ連合友好議員連盟のアフリカ視察団のメンバーとして訪問したマダガスカルで、『アイアイ』という固有種のお猿に出会いました。日本では固有種として知られておらず、大変珍しい貴重な猿です。ジャック・シラ首相と会談した際には、「是非、仙台の八木山動物園に『アイアイ』を迎え入れたい」と申し入れ、首相から、前向きな返答を頂きました。

帰国するとすぐ、八木山動物園で、『アイアイ』の受け入れが可能かどうかについて、現場関係者との懇談をすると共にラディフェラ駐日マダガスカル大使に要請しました。



八木山動物園にて

秋葉けんやと語る会 (国政報告会)

～宮城野区・若林区・泉区～

「政治には興味がない、期待していない!」そんな声をよく耳にします。しかし、嫌いでは済まされないのが政治です。

少子高齢化社会、社会保障制度、都市問題、教育問題など、身近な問題から地球環境問題や世界平和に至るまで、全て政治にかかわっています。

わたくしたち有権者は、「言う権者」です。諦めないで、秋葉代議士と一緒に語り合いませんか?秋葉代議士とスクラムを組んで、宮城から日本の政治を変えていきましょう!

原則として毎月1回、それぞれの区で開催する予定ですので、皆さん、お気軽にご参加下さい!!

【連絡先】

秋葉けんや仙台事務所

〒981-3121

仙台市泉区上谷刈四丁目17-16

TEL 022-375-4477

FAX 022-375-0057

日時・場所などの詳細につきましては、上記連絡先までお問い合わせ下さい。

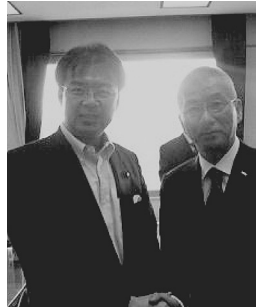
自然エネルギー利用現場を視察! 秋葉けんやは現地現場主義を貫きます!

石油、天然ガス、石炭等の資源に乏しい日本の実情に鑑みれば自然エネルギーなどの新エネルギー開発は、非常に重要です。

秋葉代議士は、県議時代、宮城県の自然エネルギー促進条例を議員立法で手がける等、自然エネルギー問題について積極的に取り組んで参りました。

そして8月には、新エネルギー促進議連(会長 小杉隆衆議院議員)のメンバーとして、温泉熱発電の利用・開発に取り組む長野県草津温泉と、小水力発電・地中熱ヒートポンプの利用・開発を進める長野県軽井沢町の星野リゾートを視察しました。

この視察は、新エネルギーの利用・開発を進める現場を学ぶ貴重な機会となりました。



中澤草津町長と

お知らせコーナー

県議時代から12年間、雨の日も雪の日も、朝7時～9時まで定期的に街頭演説を行ってきました!おなじみの街頭演説は秋葉代議士のトレードマークです。衆議院議員となり、街頭演説することができる日数が減ってしまったことは本当に残念なことです。月曜日(月曜が祝日の場合は火曜の朝)は欠かさず、朝7時から行っています。

お近くの駅前で演説している秋葉代議士を見かけましたら、お気軽にお声をかけて下さい! 9月、10月は下記の場所で行う予定です。

9月4日(月) 泉中央駅	9月11日(月) 福田町駅	9月19日(火) 中野栄駅
9月25日(月) 黒松駅	10月2日(月) 八乙女駅	10月16日(月) 苦竹駅
10月23日(月) 東仙台駅	10月30日(月) 河原町駅	



秋葉 賢也(あきば けんや) プロフィール

- 昭和37年7月3日宮城県生まれ、44才。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。
- 財松下政経塾卒塾(第9期生 宮城県初)。
- 宮城県議会議員(三期)を経て、現在、衆議院議員(二期目)。
【衆議院所属】文部科学委員会委員、災害対策特別委員会理事、行政改革特別委員会委員
【自民党役職】副幹事長、国際局次長、青年局次長、情報調査局次長、国土・建設関係団体副委員長 他
【その他】宮城県トリアスロン協会副会長、宮城県セーリング連盟顧問、保護司、宮城県土地家屋調査士協会顧問 他
- 著書:「地方議会における議員立法」(文芸社)、「東北の夢創造」(ぎょうせい)。
- 趣味:野球などスポーツ、音楽、映画。

